

創刊 50号記念誌

谷野自治会情報誌

発行 平成二十二年一月吉日

『祝』 広報「やの」創刊五十号

谷野自治会長 本橋 憲一

自治会員の皆様「明けましておめでとうござい
ます」

昨年は自治会活動に「ご支援、ご協力をいた
き誠にありがとうございます。おかげをもち
まして、さまざまな行事も当初の計画通り実施
することができました。また、地域の人々が安
全で快適に暮らせるような環境整備もいくつ
か実施してまいりました。我々執行部の任期も残
り少なくなつてまいりましたが、残された期間
全力でやつてまいりますので、今まで以上の「ご協
力をよろしく願います」。

ところで、谷野自治会が発行する情報紙、広
報「やの」が今回で創刊以来第五十号となりま
した。誠にめでとつございます。「やの」が初め
て発行されたのは昭和五十五年六月のこと
で、当時書記をなされていた現副自治会長の増田
擴さんが中心になり発行されたと聞いておりま
す。ちなみに第一号を見ますと巻頭に当時の自
治会長でありました奥富清一さんの言葉が手
書きでつております。ワープロ、パソコンのない
時代、すべて手書き、ガリ版刷りで作られたと
思われる第一号を拝見すると当時の発行者の
御苦労がしのべれます。それ以来約三十年の歳
月を経て発行されてまいりました。実にすばら
しいことだと思えます。

広報「やの」につきましては、私も平成四年の第
三五号から数号にわたりその発行を担当させて
いただきました。当時はようやくワープロが普

及し始めたころで、私も覚えたてのワープロを
使いこなすべく悪戦苦闘して取り組んでおりま
した。そのころのワープロはわずか三行程度し
か画面に表示されませんでした。当然今のパソ
コンのような編集もできませんので、打ち込ん
だ文章を感熱紙に印刷してそれを適当に切り
刻んで台紙に貼り付け編集するという作業を繰
り返して作成しておりました。せつかく作成して
も後から一字間違いを発見すると最初からや
り直したことも一度や二度ではありませんでし
た。しかしそんな苦勞を吹き飛ばすような嬉し
い出来事もありました。それはこの広報に息子
が小鳥の巣箱についての作文を載せたときのこ
とです。ある日我が家を訪ねて来た「婦人が柿
木に掛った巣箱を見て「あれがこのあいだの広報
に載っていた巣箱ですか？私のはあの広報「やの」
が発行されるのを楽しみにしているんですよ。
作るのは大変でしょ」と言ってくださったんです。
自分の作った広報を楽しみにして熱心に読
んでくれる人がいるんだと思うと、それまでの
苦勞が一遍に吹っ飛び晴れやかな気分になりま
した。

時代は変わつて現代でも、広報「やの」を作成・
発行する自治会・書記さんの苦勞は大変なもの
です。それでも、発行を楽しみにしている人がい
ることを励みに頑張っておりますので、皆さん
もどしどし原稿をお寄せいただきましてこの広
報「やの」が末永く発行を続けられますよう「ご
協力をよろしく願います」。

追記

過去に発行された、広報「やの」は自治会館の書
棚に備付されております。

老人クラブ「和楽会」のあゆみ

和楽会 吉川 徹

老人クラブは、昭和34年東京都の助成によ
り地域を基盤に、「老後の幸せは高齢者自ら創
りだす」ことを目的に、60才以上の高齢者によ
る自主的組織として、青梅市内では下長瀬長寿
会が誕生したのがはじまりです。

昭和38年7月、老人福祉法が制定され以降、
全国三大運動である「健康・友愛・奉仕」の推進
に努めると共に、地域を豊かにする活動として
の伝承文化や、世代間交流活動の推進を図るた
め全国各地に結成されてきました。

当会は、昭和39年4月「谷野・木野下」地区を
対象に「木谷長寿会」の名称で発足したのがはじ
まりです。

そして、27年余の活動実績をふまえ、平成5
年4月それぞれ独立し「谷野和楽会」が誕生し
新たにスタートし現在に至っている。

活動理念は、人と人のつながりを大切に会員
相互の親睦を図り、地域社会で共に生きる喜び
を感受できるよう各種事業に取り組んでいます。

主な事業は、奉仕活動―児童公園・スポーツ
広場・神社境内の清掃、健康増進―グラウンドゴ
ルフ・輪投げ・ゲートボール・歩こう会活動など、
地域会員交流―舞踊・カラオケ交流・誕生会、
また自治会の諸事業に参加協力し連携強化に
努めています。

各活動の財源は、国・東京都・市からの補助金、
会員会費、寄付金等で運営しています。

誰もが必ず通らなければならない道が若いのです。

人と人のかかわりを欠くことのないよう、そして安心して豊かな人生が送れるよう、自ら進んで会員加入し地域の一人として互いに見守り見守られることができる地域づくりをしましょう。

愛宕会ソフトボール部より

監督 恒吉 光郎

我々ソフトボール部は愛宕会に属し、数十年前より「健康の为一環」として活動しています。毎週日曜日の朝には愛宕山に集まり、練習で汗を流しています。

あくまでもクラブチームではないので、誰もが参加でき楽しく汗を流すことが前提として活動しているのですが、しかし、やるからにはその練習の成果も求め、対外試合をしたり、市民大会にも参加しています。

ここ数年平均年齢が高くなってしまったのですが、昨年から若いメンバーが増え、今では40代までのメンバーで1チームが作れるほどにまでなり、20代から60代までのあらゆる世代の人達で楽しく活動できるようになりました。



そこで、新たなメンバーが増えてきた為、長年愛用してきたユニフォームも、来シーズンに向けてデザインを一新し、新調することになりました。

今までは練習では各自自由な格好でしたが、来シーズンからは練習でもそのユニフォームを着て気分も新たに活動をしていこうと思っています。また、練習も大事な事ではあるのですが、それに匹敵するほど反省会も大事にしています。練習が終わると、グラウンドにテーブルを作り、反省会に残れる人達だけで千円会費の飲み会です。ただ飲むだけではなく、ここでは当然真面目に野球の話もすることもあれば、くだらない話もあり、要は反省会と称する「交流の場」となるわけです。中には、練習はしないけれど、きちんと反省会から参加してくれる人も居て、とても楽しい部となっています。

野球の経験がなく入部しづらいと思っている人も沢山いるかと思いますが、上手い下手は関係なく、「谷野地区の交流の場の一つ」として来て頂いても構いません。みなさんは是非練習に来てくれることを願っています。

ちなみに、2月まではシーズンオフとなります。3月よりキャンプインとなりますので、日曜日の朝8時に愛宕山に集合！

目標としては、愛宕会でA・Bの2チームが出来るようにしたいと思っていますので、まだ愛宕会に入っていない方で参加したい方いましたら、遠慮しないで声を掛けてください。

さくら子供会会長 嶋村 俊宏

広報「やの」創刊五〇号おめでとうございませす。

さて、前号の後、子供会の活動がいろいろ行われましたのでご報告させていただきます。七月は育成会主催の球技大会があり男子はミニサッカー、女子はミニバスケットに出場しました。惜しくも予選で敗退となりましたが男子、女子チーム一丸となって最後まで諦めずにボールを追いかけていました。一〇月の第三ブロック運動会ではいろいろな競技種目に参加、いい汗をかきスポーツの秋を楽しみました。

そして、大人と子供たちが一体となって一生懸命頑張った結果、谷野チームは見事優勝することができました。改めて谷野住民の団結力の凄さを感じました。さらに十一月には「秋の火災予防運動週間」の一環で地元消防団とともに谷野地域内のパトロールを実施致しました。市内では初めての試みとのことでしたが、拍子木を打ちながら「火の用心」という子供たちの大きな掛け声が秋の夜空に響き渡っていました。今後子供たちに火災予防に対する意識を持っていただければと思っております。



今後の企画として一月には親子ビーチボール大会を予定しています。今後も様々な行事、体験を通して子供たちの成長、そして思い出になるような活動ができればと役員一同思っております。これからも保護者、自治会の皆さまのご協力を宜しくお願い致します。

《子供会会員募集中》

途中入会でも大歓迎です。

一緒に楽しみましょう！

鳴村 三三〇一三七

創刊号の事

増田 擴

前の歳に自治会館が新装成って(現在の会館)自治会の活動に活気がみなぎって来た頃、当時の自治会書記からの提案を、自治会長が快く賛同されて、広報「やの」が創刊へ向けて動き出したのが、昭和55年(1980年)の春の事でした。

当時の谷野の世帯数が170戸、年を追うごとに谷野に居を構える人が増え、自治会活動の中で住民間のコミュニケーションをどのように取って行くか、その方策のひとつとして情報の共有という事も大切なことである、という事から、幅広く情報を発信する手段として、広報誌(情報誌)の発行を思い立ったのでした。

今の様にコピー機やパソコン(ワープロ)の無かった時代です。今では遠い過去のものとなってしまった「がりばん」(謄写機)が唯一印刷発行の手段でした。

やすり板の上に獵引きの原稿を乗せ、鉄筆で、指先に注意を集中し、目をしょぼつかせながら、文字や絵を丹念に書いて(刻んで)行く根気のいる作業でした。

出来上がった原紙を布製のスクリーンに固定し、真っ黒な半練りのインキをたっぷりスクリーンの上に載せ、ゴムローラーで刷り上げてゆくわけですが、筆圧の不均一によるインキの滲み出しやカスレ、印刷時の原紙のよじれや皺、インキの濃淡ムラや刷り枚数(上手く刷れても二百枚が限度)などの困難な条件が加わり、落ちにくい油性のインキを手や顔にくっつけての悪戦苦闘でした。この作業には当時活発に活動していたママさんバレー部のキャプテンやバイスキヤプテン等が積極的に協力してくれたことを、今でもありがたく思い出します。

創刊号の内容を見てみますと、自治会長の創刊にあたっての挨拶文、役員会報告、前自治会長の自治会に対する思い、クラブ活動報告、婦人会長婦人会活動紹介、会員よりの寄稿、等が紙面を飾っています。

その中からいくつかの記事を拾ってみます。
 ・消防団第三分団第三部が市のポンプ操法大会で準優勝の偉業を成し遂げた。
 ・長寿会が愛宕グラウンドで毎週水曜日、20数名でゲートボールをやっています。現在会員は50名ほどで元気に活動している。
 ・子供会は104名の小学生会員で、廃品回収、美

化運動、球技、等の活動を行っている。今年の夏休みはNHKと東京タワー見学だよ。

・愛宕会は会員100名余、ソフトボール、バレーボールで活躍している。

・婦人会は会員相互の親睦と地域社会への奉仕を目的に健康保険税、国民年金の集金、歳末助け合いへの協力、おむつを送る運動など活発に活動している。

・民謡会11名、秋の市の文化祭での発表を目指して毎週月曜練習に励んでいる。

・カラオケ会 会員12名毎週火曜8時から歌いまくっている。

といった記事が見られます。これらの事は広報「やの」と同様に内容や形を変えながらも、先輩たちの思いを受け継ぎながら後進に引き継がれて、今なお営々と活動を続けています。

広報「やの」は、これからも谷野自治会情報の発信源として末長く引き継がれてゆく事と思えます。

広報「やの」と私

齋藤 光彦

広報「やの」創刊50号おめでとつございます。私も増田さんから広報を引き継ぎ次期書記につないでつないで50号ということで考え深い思いがします。

私が書記に選出されたのが昭和59年です。今から26年前になります。

増田さんが四年前から「広報」の「やの」を発行しているのを客観的に見て「うまいもんだな」と思っていました。それが書記になって増田さんから「広報」を続けてほしいと持ちかけられ、どうすれば長く続けることができるのか思案しました。思案していてもいい案は浮かばなく、まず「広報」を見て一度作ってみよう、それで手書きで一冊を発行しました。私は、この際、ワープロに挑戦しよう！ワープロで書けば読みやすいのではと、早速、ワープロを購入しました。

当時のワープロ(プリンター一体型)は、高価でディスプレイが一行表示、この当時は、ワープロが出来る人はほとんどいません。聞くことも出来ず独学で一生懸命学びました。

この「広報」の発行に関わった事でその経験が、その後、仕事、行使ともに大いに役立っています。

最後に、これからも「広報」の「やの」を続けていってほしい。

「明るい選挙推進委員」を経験して

本橋 寿美

「広報」の「やの」創刊五十号おめでとうございませう。

思い起こせば一昨年の春、主人が自治会の役員に就いたのを機に、私にも「明るい選挙推進委員」の役が充てられました。

昨年はその推進委員にとって大変忙しい年となりました。というのも、皆さんもまだ記憶に新

しいと思いますが、七月に東京都議会選挙、八月に衆議院選挙が行われたからです。選挙のない年も啓発活動は行われておりますが、今年の場合、間近に迫った投票日に向けて、投票率向上のため七月と八月の二回にわたり、河辺駅での駅頭啓発と市内バス啓発が実施されました。駅頭啓発は早朝七時に河辺駅に集合してポケットティッシュ等の資材を配布して、投票参加を呼びかけました。また、バス啓発というのは青梅市役所に集合して、バス二台に分乗し青梅の端から端まで巡回しました。巡回中はあらかじめ決められた場所に下車して、資材の配布を行いました。

衆議院選挙が八月三十日に決定すると、私は八月二十六日の期日前投票立会人に選任されました。場所は河辺駅前投票所(中央図書館)、午前九時開始から夜の八時までの立会いでした。当日は開始と同時に次から次へとたえまなく訪れる人達、中にはヘルパーさんらしき人に介助されながら車椅子のお年寄りもみえました。「苦労さまでした」投票を終えた人たちに掛けられた声は百回を超えました。いよいよ時計の針が午後八時に近づいてきた時、仕事帰りなものでしよう、作業着姿の職人さんらしい若い男性が三人で入ってきました。投票に来るのは初めてなのか皆少々緊張気味でしたが、立会人の説明に従いながら無事投票を終えて、晴れ晴れとした笑顔で帰っていったのがとても印象的でした。私にとってはおそらく一生に一度の大役でしたから、午後八時終了の瞬間は全身の力らが、スーと抜けていく様でした。

十一月に入り、永山の産業観光祭り、第三支会のおふるさと祭り、啓発活動はつづきましたが、今年の管外研修の日程も決まり私の任務もゴール間近となりました。

ともかく、不安いっぱい「明るい選挙推進委員」のスタートでしたが、大変貴重な体験をする事ができました。日頃の皆様の「協力」に感謝しつつ、残された任務を達成したいと思います。

『休日』

福岡 進

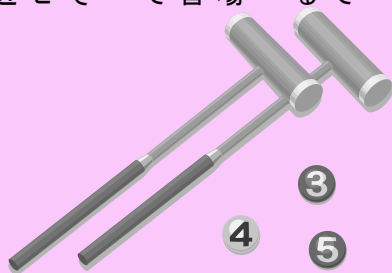
会社員には休日があります。

休日と言っても日曜日とか祭日ではなく、平日に休む事を『私の休日』と思っています。

休みの過「し」方は、人それぞれで運動をする人、趣味に没頭する人様々ですが、私はゴルフをすることに心がけています。

ゴルフと言ってもゴルフ場に行くのではなく、練習場に足を運ぶ事なのです。

自分のペースで球を打って、とても楽しく過「せ」ていました。しかし、最近では百球ぐらい打つと、なんだか飽きてしまい、時が経つにつれて練習場に行く回数も少なくなってきました。



何か、他に休日を楽しめることはないか日々、模索していたら『谷野グラウンド』でゲートボールをしている所を見て、なんとなく面白そうだったので参加させて貰いました。

初めは、ルールも何も知らないで教わりながらゲームしていたのですが、ゲートボールは三十分間の時間制限の中で如何に自分のチームが得点を取れるかを競うゲームでした。

上手な人にゲートボールの楽しさを教えて貰い、今では他地域の人といっしょに遊べるようになり『私の休日』はとても充実されています。

ゲートボールは、ゴルフにくらべ費用が安く楽しく、これから先、自分が続けて出来る趣味の一つになりました。

ゴルフを辞めたいとは思いませんが、長く続けられそうなのは『ゲートボール』かな？と思う今日この頃です。

優勝トロフィー奪回

体育委員長 大栗 毅

第26回市民運動会は、参加者みなさんのお陰をもちまして2年ぶりに優勝する事ができました。思い起こせば、前年の慰労会にて綱引きチームによる勝利宣言を有言実行にする事ができました。驚きです。

霞戦争という言葉が、存在するかどうか分かりますませんが、その昔、蔵主神社で祈願し自治会館から大名行列のごとく幟旗を上げ運動大会

に向かうその光景は、まさしく戦争だったに違いがありません。(これら先輩方々の昔話より。)

現代地域社会において都会化し、多様化しワイルドマンションなど家庭を形成しない住宅が多くなると、自然と人間関係など希薄になつてくるといえます。

そんな中ふと「100年後の谷野」を想像して210年は、現在のような自治活動が存在するものか？少し哲学的に疑問を持ってしまいました。

体育委員の任期を4年とすると、25人の世代交代と自治活動の継承が必要な

訳です。ある地域では自治会自体なくなつていくという話も聞きます。しかし、よく考えて見ると1年を通して地域の皆さんが集い、活動し、楽しく暮らしていく事が、



安心・安全な町を作る目的であれば、100年であろうか今後永遠に継承されなければならぬ自然の形なのかも知れません。さて谷野の現状はどうでしょう？毎年同じイベントの繰り返しではありませんが、確実に会員は増え、若い会員も多数参加し谷野がまさしく青年期・壮年期を迎えていると言っても過言ではありません。また、それは今期運動会の活躍を見ると証明できる事でしょう。

人間は、目的を持って行動し、反省し、修正するといふP(プラン)D(実行)C(チェック)A(アクト)サイクルを自然に持ち合わせている動物でもあります。またこれらの意味を「活性」といふ言葉とすると、この谷野がこれからも良い意味で活性化された町であり安心・安全な地域で

ありますようにお願いします。また、諸先輩の残された伝統的な財産を大事に使わせてもらうという意識を持って過ごして行きたいと思えます。

此の方、壮年期というか中年期、身も地域も生活習慣病には注意しましょう！

ゴルフでつなげる地域社会

谷野ゴルフ愛好会

事務局

篠田 豊可

平成21年11月、日本プロゴルフ界では18歳の石川遼が賞金王争いを演じている。残り試合はあと僅か。これを征すれば過去の尾崎将司の最年少記録の26歳を大幅に更新し、初の10代での獲得となる。

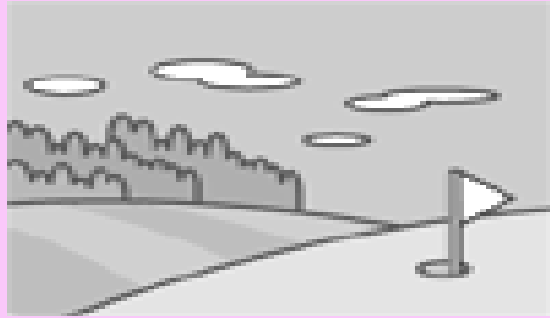
二年前、まさに彗星の如く登場した石川遼は、既に国民的ヒーローになりつつある。何故に彼がここまで人気者になり、若年層からお年寄りまでもが賞賛する存在なのか。単純に「ゴルフが上手いから」と言うようなものではない気がする。やはり誰もが「こうありたい、こうなりたい」という生き方の理想形のようなものを石川遼に感じ取っているからではないだろうか。彼ははつきりと自分の夢を語っている。「マスターズで優勝する事。そしてそれはもはや夢ではなく現実の目標である。」と。彼の中には夢を実現する為に何が必要で、どうすればそれが得られるかが明確になっており、それを一つ一つ実行しているのだ。

そういう軸のぶれていない純粹な力強さが、見ているものを引き付けて止まないのではないだろうか。これはなかなか難しいことではあるが、周囲の大人たちのすばらしいサポートがあつてこそ実現できるの
だろう。

また「ゴルフ」という競技の持つ社会性も彼を成長させる大きな要因なのである。ゴルフはルールとマナーで成立する個人競技であり、審判のいない自己申告制で行われる。

そんな中で自分への厳しさと相手への思いやりを育んだのではないだろうか。

さて、我々が住むこの地域にも多くのゴルフファ―が日夜自分自身との戦いに励んでいる。このようなひたむきな「石川遼」たちをまとめ、更なる技術向上と人生の充実(少々誇張きみではあるが)を目指して8年前に発足したのが「谷野ゴルフ愛好会」である。小林文一会長のもと、現在では42名ものプレーヤーが名を連ねており、毎年賞金王ならぬ「エンジョイ王」を目指して大いに活躍している。大会は年間3回、昨年の11月で25回目を迎えた。ハンディキャップ制で行な



うコンペは、上級者から初級者まで全員に優勝のチャンスを与え、そこで若者から80歳代の先輩までの幅広い層が無邪気に競い合っている。上位の成績を練習の成果と喜ぶ者、惨敗に日頃の不振生と反省する者、様々であるが、最終的には全員が笑顔で美酒に酔い、その日の出来事談に花を咲かせて充実感を分かち合う。そんな素晴らしい活動の会になっている。

地域社会の繋がりが強化が必要なのだ、と少年高齢化と犯罪発生率増加の時代に叫ばれて久しいが、実態は生活スタイルの多様化の中で、なかなか有効な手段を見つけられないのが現実だ。

物理的な意味での隣近所も、心理的には遠い存在であることもよくある話である。単純な引つたくりのような物取り犯罪から、理由の解らぬ殺人事件までもがはびこり、振り込め詐欺の電話がいつあるかも知れないと不安をかかえる時代である。そんな中、平穏な生活と、子供たちの健全な成長を可能にするような地域社会は絶対に必要である。それに必要不可欠なのは隣近所との積極的なコミュニケーションなのではないだろうか。

我々「谷野ゴルフ愛好会」はゴルフという共通の趣味を通して、そんな役割を果たしていこうと思つています。昨今は非常に手軽に楽しめるスポーツになってきました。是非皆様、こんな我々とエンジョイしませんか？石川遼を目指して…

運動会

さくら子供会 三年生 嶋村 萌花

わたしはリレーの一番に走りました。どきどきしました。ピストルの音がなって走り出しました。わたしは右から二番目に走ります。自分でも一番かわかりませんでした。よこやななめを見て

いられないので真つすぐ走りました。バトンをわたすところがむずかしかつたです。でも転ばなかつたし、バトンをちゃんとわたせたのでよかつたです。

ほかにもかり物としようがい物とパン食いきよう走と八十m走いろいろ出ました。とくにしようがい物やかり物が初めてだったのでどうやってやるのか心配でした。しようがい物はさいしょにあみをくぐりそのつぎはタイヤをくぐって、なわとびでスキップしたり、さいごにバトミンソンのラケットでボールをおとさずに歩いてゴールまで走りました。また、らい年もいっぱい出たいです



運動会

さくら子供会 五年生 上村 喜士

僕は、運動会でつなひきと500m走と分別レースにでた。

つな引きはそんなに勝てなかったけどよかった。500m走で、ぼくは最初に飛ばしすぎて疲れて後の方だった。



でも、お菓子、ティッシュがもらえたのでうれしい。おうえんもはた振ってるのが楽しかった。

分別競争が一番楽しかったと思う。たなの上からある一定のしゅるいのごみを持っていて、ふくろに入れるレースだ。そのときは不燃ごみがたいしゅうで、なかなか当たらずにうき輪を持っていったらできた。楽しかった。それから出番がくるまで近くの公園で遊んだ。昼ごはんはけっこうおいしかった。午後はおうえんしていた。とくに大人のつな引きがはくりよくがあつてすごかった。最後は谷野が優勝でした。優勝ー!! やったー!!

現代「多摩語」の基礎知識

奥富 博三

第一章・序にかえて

世はまさにセンチユリー21、ボーダレス世界や、グローバル化が叫ばれる今日、現代「多摩語」の基礎知識がどれほどの意味を持つのかと、危惧する人民が数多く存在するであろう。しかし、反面21世紀だからこそ、少数民族の言語や生活習慣を理解して初めてグローバル世界の現に寄与できるのではあるまいか。と言った苦しい大義名分を掲げてここに大研究を展開すると大見得を切ったものの、一部の時から、何だ二番煎じじゃないかと、揶揄の声も聞こえてきそうである。がしかし、ことここに至っては「政權交代」もあつたことだし、世論は一切気にせず、持論を展開します。

第二章・現代「多摩語」の基礎知識

この章では、私の後輩(※)がある機関紙に投稿した文章の一部を紹介します。

今回の特集は、多摩地区出身者の特集だそうだが、我が事務室も大多数が、都内23区も含めた「地方出身者」であり、生粋の多摩人はたったの2人である。彼ら地方出身者が初めて多摩に出てきた時の共通の障害が言葉であつたそう。その理由はなんだろう。一説によれば多摩の言葉は「日本語」ではなく「多摩語」だからだそう。何だ方言のひとつじゃないかと思うなかれ。多摩には縄文時代から人は住んでいたのである。中略……

さて「多摩語」が使われる地域がいわゆる多摩であるが、言語学上、山梨、神奈川、埼玉の一

部も含まれる。さらに多摩は北多摩、西多摩、南多摩の3地域に分けられ、言葉の方もそれぞれの地域で多少異なるようである。北多摩語は、最近23区を含めた地方出身者の流人その面影は失われつつあるが、西多摩語はまだまだ健在のようである。中略……

また、多摩語はそれを話す人の年齢によっても区別される。マスメディアの発達により、日本語の影響を色濃く受けた20代、30代の人から反す多摩語を「現代多摩語」それ以上の人が話す多摩語を「近代多摩語又は純粋多摩語」と理解いただければ幸いである。さらには70、80歳の爺ちゃん、婆ちゃんが話すのが「古代多摩語」であり、これは現代人の私には理解できないことがある。と紹介している。また多摩語の基本について次のように解説している。

多摩語の基本は、言葉の語尾に「べえ」「だんべえ」を付ける。

☆使用例 早く飯を食うちまうべえ。そうすんべえ。

★日本語訳 早く食事をしてしましましょう。そうしましよう。

右記のように文法的には日本語とほとんど変わらないのですが、これであなただは二ヶ国語の同時通訳者になれるであろう?。と解説している。(※＝T高校BUTY氏)

第三章・多摩語広辞苑

次ページの広辞苑では、右記BUTY氏の調査結果(投稿)をもとに、さらに、囃子連のヨウちゃん会長、谷野カーペンタービレッジ(大工村)住人で、内田のマーちゃんの名で親しまれている、近代多摩人のアドバイスによる、厳選15例を紹介します。

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
多摩語	いいからかん	はてもねえー	ちつとんべえー ちんべえー	おっぺす	かつしええー らつしええー	ようどうされ	うざつたい うざつてえー	やあーべ	げえーもねえ	ぐでなし	あんだかやあ!	ささらほうさら	あつさらしー	かがみつちよ	つつたぎる
品詞	形容詞	形容詞	形容詞	動詞	動詞に続 けて使う	形容詞?	形容詞	動詞	形容詞	形容詞	感嘆詞	形容詞	感嘆詞	名詞	動詞
意味	いいかげん ずぼら	とんでもないこと	少し、これだけ	押す	〇〇しませんか 〇〇したらどうで すか	不良・だめな	汚い 汚くて気持ち悪い	来い 来なさい	役に立たない くだらない	余計な	特に意味はない。驚いた時、呆れた時に使う、イントネーションに特徴。女子高生、女子大生が使う「ヤッター」とか「ウッソウー」とか「ホントー」とかと同じように使うとオシヤレである。※多摩語では、「なに」のNaをaと発音するらしい。	使った道具をささら	いいかげん	トカゲ	横切る、突き進む 横断する、通る
使用例	あの人は いいからかんの人だから	あんだか、はてもねえーな	もうちつとんべえー飲むか これちんべえーか もつとんと注いでくれ	リヤカーをおっぺしてくれ	寄ってかつしええー あがつてらつしええー	このようどうさが	わーなにこれ、うざつたい わーなにこれ、うざつてえー	早くやあーべ 一緒にやあーべ	そんなことしたつて げえーもねえ	そんなぐでなしすんな	使った道具をささら	あつさらしー、ほんとかヨ	あつさらしー	あの山ん中あつたぎつた 方が早かんべえ	あの山ん中あつたぎつた 方が早かんべえ
日本語訳	あの人は、いいかげん (ずぼら)な人だから 何ですか、とんでもない ことです	もう少し飲みましょう これだけですか、もつと 沢山注いでください	リヤカーを押してください	寄っていきませんか お上りください	このだめやろう(不良)が	わーなにこれ、 汚い、気持ち悪い	早く来い 一緒に来なさい	そんなことしても役に立た ない、くだらないことです	そんな余計なことするな	そんな余計なことするな	使った道具をいいかげんに しておくんじやない	エー一本当ですか	エー	背中が虹のようにテカテカ光り、石の上などで昼寝をし、 危急の際は、自分の尻尾を切つて逃げてしまふ爬虫類	あの山の中を走つて行った 方が早いでしょう

第四章・むすび

皆様がかがでしたでしょうか。難しいじゃんかーと感じた人。こんなものなら俺らあーいつだつて通訳できるだ。と胸を張る人、人生いろいろ、いや人それぞれ、それでこそ近代・現代多摩人なのです。とは言うものの多摩語そのものは、ここに紹介した数の3倍も4倍もあるのです。それらを全てマスターした上で、激動の21世紀、世界各国での「多摩人」のご活躍をお祈りいたします。では……

青梅市交通安全協会

第3支部第3ブロック

山田 仁

常日頃、青梅市交通安全協会に対しまして、ご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。ごぞいませ。

早いもので、私たちが谷野地区の交通安全指導員に任命されてから1年半が経ちました。任命当初は、お互いの顔もわからず、果たして自分たちが地域の交通安全に貢献できるのか不安でいっぱいでした。

しかし、一つ一つ行事を重ねていくたび、自治会長さんをはじめ、谷野自治会の方々、指導員OBの方々から温かいご支援をいただき、また、講習会への参加、青梅マラソンなどの青梅市主催のイベントへの協力など、様々な経験をさせていただいた中で、チームワークも固まり、少しずつですが、地域の交通安全を守ること・地域貢

献とは何かを理解することができました。まだまだ未熟な4名ですが、今後も、精一杯がんばっていきたいと思いますので、これからもご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

防犯パトロール隊員を体験して

本橋 貞夫

「防犯パトロール隊が発足巡回を始めて、早いもので三年が経過しました。石の上にも三年と言いますが、自治会長さん、自治会員の「ご協力によりほぼ定着した感じ」です。

巡回内容については、発足当時の決めた内容により実施しているところであります。

小学生登校時通学路(欄干橋、小学校北側、日詰橋)をパトロール中体験したことを述べさせていただきます。

一、安全について

(一) 他自治会区域を巡回中、生垣、畑地の樹木が繁茂し通行の妨げになっているので、関係自治会長さんに連絡、直ちに実施してもらおう。

(二) 二年前、十cm位積雪のある稲荷橋の手前で、一年生(女子)が不安そうに立ち止まっていた。近寄って「どうしたの?」と聞くと、「足が滑って怖くて歩けない」と言うので手を携えて校庭まで送った。

二、応急手当について

(一) ある寒い朝、稲荷橋手前の通学路で一年生(女子)が、痛そうにしゃがみこんでいた様子を見ると、膝にかすり傷を負い少し出血がしているので、ティッシュで拭きとり、カットバンを貼って「もう大丈夫だよ」と言ったら丁寧に辞儀して学校へ行った。そして翌日も同じ時刻に稲荷橋で会うと丁寧に辞儀をするので、本当に感心な子がいるのだと思いました。又翌日も同じ場所でお辞儀をするので、「もういいよ」と話し「両親の躰の良さだ」としみじみ思いました。

(二) 雨上がりの通学路を顔馴染みの一年生男女五人が私の前方十m位の場所を通行中、男の子が前のめりに転倒、鼻のあたまと頬から若干出血したため、顔が血と砂利が混じり泣き出しそうなので、手早くティッシュでおさえ、すぐにお母さんと呼んであげるからと元気づけると同時に、一人の生徒に学校の先生に知らせること、もう一人の生徒にはお母さんに知らせるよう指示した。子供を勇気づけているうちに母親が自転車で駆けつけてくれたので、直ぐに病院へ連れて行くよう依頼した。翌日傷人の姉に会ったので様子を聞くと、病院で手当してもらってから学校へ行ったとの事安心しました。

以上防犯パトロール中、何件かの事象に遭遇し、救急車を手配するかしないかの判断又は傷者の応急処置が若干でも出来ることは、前職場での経験が皆様の一助になれば幸いと思っております。

今後も地域の安全・安心の街づくりのため、微力ではありますが頑張っていきたいと思っておりますので、引き続き自治会員皆様のご支援・ご協力宜しくお願い致します。

かすみ台第三保育園 和田

広報「やの」創刊50号、おめでとうございます。本園は、谷野の地に、昭和四十九年四月、かすみ台福祉会の三番目の保育園として開園されました。

当時は園の前には畑が広がり、蔵主神社や谷野の会館がすぐ見え、自然豊かな環境の中で、子どもたちと保護者の方々と共に歩んできました。

現在七十二名の子どもたちが登園し、インフルエンザにも負けず、日々元気に楽しく過ごしています。未来に向けて、一人一人の発達過程を大切に、成長をささえながら保育していきたいと思っております。

今年度は、自治会員の方より谷野地区の昔の絵をいただき、三十六年のときの流れを感じました。霞台地区におけるオンリーワン…心がホツ!!とする保育園を目指し、職員一同頑張っています。

今後も、引き続き地区の方々のご指導、ご協力を宜しくお願い致します。

『YNCA』

代表 島田 規啓

今回「YNCA」という団体についてご紹介させていただきます。

「YNCA」は約5年前に谷野に住んでいる20代〜40代の方を中心に誕生いたしました。只今は約40名程度活動をしています。

活動内容と致しまして、イベント活動は親睦会（バーベキュー等）やボーリング大会など親子で楽しめるイベントを行っております。

スポーツ活動では、ビーチボールバレーを主にっております。

ビーチボールバレーは週2回練習を行ったり、青梅市で行われる年4回の大会、三支会ビーチボール大会にも出場しております。

これからも皆様のご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。



11月の三支会ビーチボール大会にて



昨年12月12日（土）に、自治会忘年会が賑やかに開催されました。抽選会も行われ、栄えある「自治会長賞」は・・・5-2組の中村さんが見事に自転車を獲得しました!!



編集後記

今回は50号記念ということで、たくさんの方々からの寄稿があり、盛り沢山の話題でした。

過去に広報を作成した方の苦労話を聞くと、今はパソコンで簡単にイラストや写真を入れたり、いろいろなことができ、つくづくいい時代に生まれました。

後何年もすると、一家に一台パソコンが普及され、回覧書類をメールで配信したり、広報もこのように配布するのではなく、谷野自治会のホームページなども出来て、パソコンで閲覧するなんて時代がやってくるのでしょうか……

でもそれでは近隣の方と顔を合わせることもなくなってしまうわけで……あまり便利すぎる時代も人との直接なふれあいや会話を遮り、考えものかもしれませんね……
100号……200号といつまでも広報「や」が続くことを願っています。

書記

フォトグラフ

ふるさと祭りでの
もちつき



盆踊り大会



三支会ビーチボール
大会の1チーム



自治会忘年会
での抽選会